まきば

「戸を叩いている」

「私は眠っていましたが　心は覚めていました。
ほら、聞いてごらん。愛する人が戸を叩いている。」
(雅歌 第５章２節・旧約聖書１０４０頁)

はじめに

聖書全体のテーマは「救い」です。このテーマに則して雅歌のテーマを挙げるなら、「愛されていることを知ることが救いである」と言えます。確かに神は出てきませんが、男女の関係を用いて、私たちがどれほど神に愛されているのかを知ることができます。様々な表現を用いて、私たちのすべてを愛してくださる神の存在を知るならば、私たちはその愛によって生きることができるのです。知るだけではありません。それを受けていくことで、神との愛し合う関係が完結します。当たり前のことではありますが、そのことを確認したいと思います。

心は覚めている

まず「私は眠っていましたが　心は覚めていました」という状態です。これは、肉体の問題ではなく、心の状態を指しています。つまり、天地創造の際に人間は「神のかたち」に造られました。これは、神さまが私たちがもっている肉体と同じ形態をしていたのではありません。心が通じるように造られたことを意味しています。周波数が同じ規格になっているようなもので、テレビのチャンネルを合わせたら、神のメッセージが受けられるようにされているのです。

私たちは神の愛を受けなければ生きられません。だからこそ、私たちの心は、神の愛を受けたいと願って、いつもそれを求めている、それが「心は覚めていました」の意味です。私たちの心には、神の愛を求める機能が創造以来、備わっているのです。

聞いてごらん

ところが、神の愛による以外に満たされないのにもかかわらず、神の愛ではなく、違うものでその欠けを満たそうしています。しかし、それによって満たされることはありません。満たされたいと思ってさまざまなものに依存し、裏切られていく、その繰り返しで、私たちは傷ついてきました。その様子も雅歌に書かれていますが、だから、「聞いてごらん」なのです。

「あなたは美しい」「私はあなたを愛している」との神のメッセージは、常にあなたに語られ続けています。私たちは周りにながされず、心を静め、その声を聞くべきです。そして、あなたの心の戸を叩いている、その音を聞き分けるべきなのです。神は私たちを捜し、戸を叩いています。

戸を開ける

ヨハネの黙示録には「私は戸口に立って扉を叩いている。もし誰かが、私の声を聞いて扉を開くならば、私は中に入って、その人と共に食事をする」(3:20) と書かれてあります。私たちが取るべき行動は「戸を開ける」ことのみです。

神は私たちを愛していると言ってくださり、私たちを探し出して、戸を叩いてくださっている。戸を開く、それを心から受け入れることによって、神は私たちに、その愛を直接語り、親しく語らってくださり、共に住んでくださるようになるのです。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】
右記のＱＲコードを読み取ってアクセスしてください。

今週の祈り

「私は眠っていましたが 心は覚めていました。ほら、聞いてごらん。愛する人が戸を叩いている。『私の妹、恋人よ、開けてください。私の鳩、汚れなき人よ。私の頭は露で髪は夜露の滴で濡れてしまった。』」(雅歌 5:2)

「見よ、私は戸口に立って扉を叩いている。もし誰かが、私の声を聞いて扉を開くならば、私は中に入って、その人と共に食事をし、彼もまた私と共に食事をするであろう。」(ヨハネの黙示録 3:20)

神さま、私は神さまの愛がどれほど深いのかをあまり考えていませんでした。もっと、どのように愛してくださっているのか、そしてどのような言葉をかけてくださっているのかを知ることができるようにさせてください。私の心が神さまの愛に飢えていたことをわからせて、その愛を受けるために、あなたが私を探し出してくださっていることをわからせてください。そして、今も、その戸を叩き続けてくださっていることを、その音を、心の耳で聞くことができるようにしてください。どうぞ、私の心におすみください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

深読みにチャレンジ！

箴言（81）
第4章9節

＊三つの違う訳を読み比べてみましょう。
◎協会共同訳 「それはあなたの頭に麗しい花冠を与え　誉れある冠を贈る。」
◎口語訳 「それはあなたの頭に麗しい飾りを置き、栄えの冠をあなたに与える」
◎新改訳 「それはあなたの頭に麗しい花輪を与え、栄光の冠をあなたに授けよう。」

「冠」

神を畏れることを基本とする知恵。その知恵を自らの生活に取り入れることによって、自ずから内面が充実し、堅実な毎日を送ることができると、父は諭しています。そして、それは人が見ていてもわかるような祝福をもたらすのだと加え、一連の教えの結びとしています。その祝福の象徴が「冠」です。

箴言が書かれた時代、すなわちソロモン王の時代には、まだ叙勲制度は確立されていなかったので、報償のような意味ではなかったかもしれません。冠は王や祭司がかぶっていたので権威を表すことの象徴物だったのですが、結婚式の際に花婿が頭飾りをつけていたとの記述があるので(イザヤ 61:10)、祝福されることを伝えたかったのかもしれません。

ちなみに、祝福の席に用いられる花冠は、オリーブは平和や長寿、月桂樹やシュロの枝は勝利、ナツメヤシは繁栄と喜び、アーモンドの花は将来を明るくする象徴でしたし、麗しさを意味するシャロンの花(野の花）などを編み込んで作られていたのではないかと思います。日本で一番すごい勲章は「大勲位菊花大綬章」で菊、その次は桐花で、黄門様が悪党を退治する時に権威を示した葵の御紋でしたが、大政奉還を機に、菊にその地位を奪われてしまったわけです。

叙勲制度はなかったと申し上げましたが、聖書に名が記されているように、名が呼ばれることがそれに代わるものだったかもしれません。

【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

1 父から子へ・受け継がれるべき知恵（1:1 ～ 9:18）
2 生活の処方箋・知っておくべき知恵（10:1 ～ 22:16）
3 先人からの知恵（22:17 ～ 31:31）
　a 知恵ある人の言葉（22:17 ～ 24:34）
　b ソロモンの言葉（25:1 ～ 29:27）
　c アグルの言葉（30:1 ～ 33）
　d レムエルの言葉（31:1 ～ 31）

聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをすることはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

【祈りの時の持ち方(例)】

①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。

②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。

③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。

④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈祷課題」も祈る。

【月曜日】◆今週のすべての集会が祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

列王記下第22章8節「『主の神殿で律法の書を見つけました』と伝えた。そしてヒルキヤがその書をシャファンに渡したので、彼はそれを読んだ。」◆マナセ、アモンととんでもなく不信仰な王が続くことで信仰が消えかかる時、ヨシヤは王となった。側近の祭司や預言者に恵まれたためか、信仰により王国を再建する。だが、それを支える柱がない。その時、発見されたのが律法の書だった。奥に隠されるように置かれていたのだろう。その書を開いた時、ヨシヤは真の信仰に目覚め、聖書の言葉によって宗教改革を断行できた。信仰は形ではなく、御言葉による。

●賛美／66 ●祈祷課題
◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

【火曜日】◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

列王記下第23章26節「主はユダに対して燃え上がった激しい怒りの炎を鎮めようとはされなかった。マナセが主を怒らせるようなあらゆることを引き起こしたためである。」◆ヨシヤのように主により頼んだ王は、その先にもその後にも起こらなかった。だが、それでも国内は落ち着かなかった。それは、祖父マナセの行為によるものだった。聖書には因果応報の考え方はない。これは、それだけ罪深い行為がどれだけ人々の心をむしばんでいるかを言っているのだ。この罪深い世の中に、私たちはヨシヤのような信仰を貫いていきたい。

●賛美／67 ●祈祷課題
◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、ＥＨＣ、ケズィック、太平洋放送協会、ＦＥＢＣ、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド･ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a.、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

【水曜日】◆ 宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

列王記下第24章14節「エルサレムのすべての住民、高官、勇士一万人、およびあらゆる職人と鍛冶屋を捕囚として連れ去った。残されたのは、ただ国の民の中の貧しい者だけであった。」◆エルサレムはバビロンによって陥落した。バビロンはその国に反乱が起きないよう、また復興させないように、おもだった人たちを捕らえていった。残ったのは「貧しい者」、つまり奴隷だけだった。何もかもが失われた時、私たちは再び立ち上がることができるだろうか。しかし、神は、その時代の中でエレミヤによって、希望の言葉を語らせていたことを忘れてはならない。

●賛美／68 ●祈祷課題
◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
◆宗教法人を取得できるように
◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)

【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

列王記下第25章30節「彼には、日々の糧として一定の割り当てが、その生涯を通して常に王から支給された。」◆都は崩壊し、廃墟となった町にいるのは力のない奴隷民だけ。主だった人々はバビロンの国中に散らされて住み、王は他国の王に憐れみを受けて養われる。これが神の王国の結末である。神は国を繁栄させてくださると言われたが、神の民たちがその約束を反故にし、滅びを招いた。神の約束を受け止めるためには、私たちの姿勢が問題である。神を捨てたことにより、民は滅びた。どこまでもより頼みたい。	●賛美／ 69 ●祈祷課題 ◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。 ◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が 50 名以上となり、受洗者が年間 3 名以上与えられるように祈りましょう。

歴代誌上第1章1節「アダム、セト、エノシュ、」◆列王記は北イスラエル、南ユダの南北両王についての記述しているのだが、歴代誌は南ユダ王国のみである。そのためまず、このユダが正当な神の選びを受け継いでいることを記すべく、アダムからの系図が紹介されている。このユダの歴史を通し、神に選ばれた者たちは真の礼拝をささげるべきであるとのメッセージを受け取りたい。神は、ここに掲げられているように、ひとりひとりに注目されている。あなたもこの系図に載せられ、覚えられているひとりなのだ。	●賛美／ 70 ●祈祷課題 ◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。 ◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。 ◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

歴代志上第2章3節「ユダの子エル、オナン、シェラの三人はカナン人バト・シュアから生まれた。」◆ここで4番目の子であるにも関わらず、ユダの系図が展開されていく。ヤコブの遺言を見るとわかるように（創世記49）、長子の権はルベンではなくヨセフが受けたが、その言動により 12 人の中で最も信頼されるに到ったユダは「つえ（指揮権）はユダを離れず」とされ、実質の代表者となったのだ。「後の者は先になり、先の者は後になる」とある。毎日の生活において、どのように過ごせば、また振るまえばよいのか、神に問いながら歩むようにしたい。	●賛美／ 71 ●祈祷課題 ◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。 ◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

歴代志上第3章1節「ヘブロンで生まれたダビデの子らは次のとおり。」◆ユダ王国の王の系図が紹介されている。北王国はヤラブアムから始まったが、暗殺されたり、クーデターが起こって失脚したり、めまぐるしく王朝が変わった。だが、南王国はダビデの血筋が最後まで続いていく。途中、アハズヤが戦死し、その血が途切れそうになった時も神の憐れみによってヨアシュがかくまわれ、つながっていった。ダビデの信仰による祝福が幾世代にも及んでいるのだが、その約束を私たちも得させていただいていることを忘れてはならない。	●賛美／ 72 ●祈祷課題 ◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。 ◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。

おやこで せいしょ

●きょうのせいしょ

【マタイによるふくいんしょ　25:14 ～ 30】
「あずけられた おかね」
（マタイによるふくいんしょ　２５：２１）

イエスさまは けっこんしきに でようとしている １０にんの おんなのひとの たとえを おはなしして、いつくるかわからない おわりのひ、「そのひ そのとき」のために、ちゃんとそなえをするようにと おしえてくださいました。

それだけではなく、かみさまが なにを かんがえておられるのかを しり、そのことを していくようにと いわれました。それをしるために、また たとえを つかって はなされました。

あるひとが たびにでることになりました。そのとき、じぶんの ざいさんを いえのためにはなたいてくれるひとに ５タラントン、２タラントン、１タラントンと、いうように、わけました。１タラントンは いまの おかねでいうなら、６０００まんえん くらいになります。

５タラントンと ２タラントンを あずかったひとは、しょうばいをしはじめましたが、１タラントンを あずかったひとは、なくならないようにと、それをつかわずに、あなをほって、かくしました。

かなりの ひがたち、あるひ、おかねをあずけた ごしゅじんが かえってきて、いいました。「あずけた おかねは どうなっていますか」。

５タラントン、２タラントンを あずかっていたひとは、それぞれが５タラントン、２タラントンを もうけていました。でも、つちのなかにかくしていたひとは、とうぜんながら、１タラントン。それをみたしゅじんは、もうけたひとに いいました。「よくやった。よい ちゅうじつな しもべだ」。かくしてしまったひとには こういいました。「なぜ そのままにしておいたのか、せめて ぎんこうに あずければ ふえたのに」。

イエスさまは それぞれが わたされているタラントン（さいのう）を かみさまのためにつかっていくことこそ、そのひ、そのときをまっているわたしたちに ふさわしい すごしかただよ と おしえてくださったのです。

●かんがえてみよう

☆イエスさまの たとえばなしに でてくる しもべたちは なんにんいましたか。
（マタイ 25:15）

☆それぞれ どのくらいの タラントンを あずけられていますか。そのひとたちは、それぞれ どのようにしましたか。（マタイ 25:16 ～ 18）

☆しゅじんに ほめられたしもべは どうして ほめられたのですか（マタイ 25:23）

なめむ聖書

もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりますが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

あずけられた　おかね

た	あ	お		か		れ	け	ら
れ		け	た	お	あ		ね	
ね		か	ら		け	あ	た	お
ら	け	あ	れ	ず	た	か		
か		ず	あ			ら	れ	た
						け		あ
け		ら	ず	た				
	お					ね	か	
	れ				か	ら	け	

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると　意味が通る言葉になります。答えてください。
（サムエル記下5章）

① しかたびいき

② おびょうく

③ つちじゅう

④ さんせい

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね

牧師の 聖書 ななめ読み

「豊臣秀長」

ご存じのように、私はドラマを見ないのですが、NHK の大河ドラマだけは楽しみにしながら見ています。多少の脚色はあるものの、歴史通りに話が進むため、次はどうなるのかとドキドキしなくていいからです。余計な心配をしたくないですから。最近のドラマは奇をてらっているのかわかりませんが、明日どうなるか分からないような展開になります。事件ものなどはすぐに殺されますよね。こんなことが起こったら大事件じゃないかと思うようなことを、一人の刑事が解決したりして。思わず笑ってしまいます。

ただ、「史実は小説よりも奇なり」という言葉が示しているように、歴史も深く探っていくと、とんでもないような偶然が重なったり、行動の裏に驚くような知略が巡らされていたりしていることがわかり、演出もあるのでしょうが、非常に興味をそそられる部分です。来年は豊臣秀吉の弟、秀長が主人公です。私は秀長がいなければ秀吉は天下を取れなかったと思っていましたので、どのように物語が進んでいくのか楽しみです。

聖書もそうで、歴史の背景を学んでいくと、それまでわからなかったことが理解できるようになります。より深く味わいたいといつも思います。

聖書ふれあい街歩き

●ティグリス、ユーフラテス川

川といえば、とても気になる川があります。皆さんもそうだと思うのですが、ティグリス、ユーフラテスです。なぜか。「エデンから一つの川が流れ出て園を潤し、そこから分かれて四つの川となった」（創世記 2:10）、その四つの川、つまり、エデンに通じると考えられる川として今も現存するというか、呼称され、残っているからです。

古代の文献から見て、現存するティグリス・ユーフラテスと同一だと考えられているのですが、ご想像通り、何千年もの年月の中で、川筋は変わってしまいます。メソポタミアで起こった文明が衰退していった要因の一つに、川が枯れた、すなわち川筋の変化が挙げられているのですが、この地域は洪水や堆積する土砂によって今も日々刻々と川の流れが変わっており、研究者によると、5000 年前と現在とでは、数十㎞も異なる場所もあると言われています。また、単純に、地図を見ていただくと分かるのですが、一つが四つに分かれたというものの、源流が一致しません。むしろ違うとしか言えず、エデンの場所を探り出すことは、今となっては不可能なのです。神さまが道を閉ざされたとしか言いようがありません。

ななめ聖書 先週のこたえ

い	と	こ	お	ち	た	し	め	か
め	し	お	い	と	か	ち	こ	た
か	た	ち	こ	し	め	お	と	い
し	か	と	た	お	い	め	ち	こ
ち	い	め	と	か	こ	た	し	お
こ	お	た	し	め	ち	い	か	と
お	め	か	ち	い	と	こ	た	し
た	ち	い	か	こ	し	と	お	め
と	こ	し	め	た	お	か	い	ち

①じぶんのぶん

②しゅくえん

③まよなか

④ともしび

＊本文を開きながら見ましょう。

トロアスからミレトスへ

さて、私たちは先に船に乗り込み、アソスに向けて船出した。そこからパウロを乗船させる予定であった。これは、パウロ自身が徒歩で旅行するつもりで、そう指示していたからである。

アソスでパウロと落ち合ったので、私たちは彼を船に乗せてミティレネに着いた。

翌日、そこを船出してキオス島の沖を過ぎ、その次の日サモス島に寄港し、さらにその翌日にはミレトスに到着した。

パウロは、アジア州で時を費やさないように、エフェソには寄らないで航海することに決めていたからである。できれば五旬祭にはエルサレムに着いていたかったので、旅を急いでいたのである。

パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。

(使徒言行録20:13～17)

エーゲ海へ

【パウロは歩いて行った】

使徒言行録に「私たち」との記述があった時には、使徒言行録の著者ルカがそこにいたことを表しています。20章5～6節で、ルカがパウロと同行したことは明らかなのですが、ただ、アソスに向かう船にはパウロは乗っていません。パウロは「徒歩で旅行」したからです(14)。とすると、パウロの指示で船に乗り込んだ「私たち」の中にはパウロは含まれていないのです。使徒言行録の中では珍しいパターンです。

つまり、「私たち」は、ルカのほかに弟子の誰かがいたことを示しています。書かれていませんから推測しかできませんが、話の流れからして、ソトパロ、アリスタルコとセクンド、ガイオ、テモテ、ティキコとトロフィモだったと考えてよいでしょう(20:4)。

トロアスからアソスまではある程度の起伏はあるものの、陸路で30kmほどなので徒歩ならば10時間程度です。ほぼ直線の道が通じていました。船はとがった岬をまわるので、もしかしたら徒歩よりも時間がかかったかもしれません。パウロは船よりも先にアソスに到着するために陸路を選んだと思われます。少しでもアソスに滞在する時間を作りたかったのでしょうか。そう考えると、アソスにも有力な信徒の集まりがあり、そこでもしばしの交わりを持ち、励ましの言葉をかけていたかもしれません。

アソスでパウロと合流したわけですが、「私たちは彼を船に乗せて」なので、トロアスから出航した船はアソス行きではなく、ミレトス行き、もしくはもう少し遠くの行き先だった船で、アソスは目的地ではなく経由地。そのため、係留時間はあまりありません。そのようなことを考えて、パウロは歩いてアソスに行ったのでしょう。

【エーゲ海クルーズ】

ここでのパウロの船旅は、まさしくエーゲ海クルーズです。パウロの寄った島を簡単に紹介しておきます。

●キオス島(20:15)

ギリシア文化が非常に栄えた場所であり、古代から海上貿易が盛んで、当時もエーゲ海の主要航路の経由地になっていました。佐渡島と同じくらいの大きさ、約850km²です。

●サモス島(20:15)

この島出身の有名人はピタゴラスです。ワインの名産地として知られていますが、過去、ギリシアの大都市でした。当時、ローマとしても重要な港として位置づけられていました。キオス島の約半分の大きさ(約480km²)ですが、中央部分には1434mの急峻な山があります。

●コス島(21:1)

医学者ヒポクラテスの出身地で、当時もゆかりのある医学校が存在していました。現在は観光地として人気があります。佐渡島の３分の１(約300km²)の細長い島です。

●ロドス島(21:1)

巨像があることで有名で、中世には聖ヨハネ騎士団の本拠地となっていたのですが、その以前から海洋国家として非常に大きな影響力を持っていた島でした。面積は佐渡島の２倍弱(約1400km²)と４島中では最大です。「エーゲ海のバラ」と呼ばれ、大型クルーズ船も寄港しています。

エーゲ海は透き通るような青さで波も穏やか。パウロはそんな風景を見ていたのでしょうか。

キリスト教まるわかり Q&A

◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されており、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼 (バプテスマ) を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別されたパンとぶどう液をいただきます。

◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員 (信者) と呼ばれます。

◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が違うため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

２０２５年教会暦・年間行事

(＃はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら１年を過すために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日を加え、守っています。

＊＊＊顕現節 (1/6 ～ #3/4) ＊＊＊

降誕日 (12/25) から 12 日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日 (1/6) から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日 (#3/2) として守ります。

＊＊＊四旬節 (#3/5 ～ #4/12) ＊＊＊

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式 (この教会では行いません)、灰の水曜日 (#3/5) から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの 40 日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週 (#4/13 ～ 4/19) は、主イエスの最後の１週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日 (#4/13) から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日 (#4/17)、十字架にかかられた受苦日 (#4/18) と過ごしていきます。

＊＊＊復活節 (#4/20 ～ #6/7) ＊＊＊

キリストが死にかって復活されたことを祝うイースター (復活日・#4/20) から始まります。春分の日の後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40 日後のキリストの昇天 (#5/29) を迎えたのち、復活節の最終主日 (昇天主日 #6/1) となります。

＊＊＊聖霊降臨節 (#6/8 ～ #11/29) ＊＊＊

復活日から 50 日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日 (ペンテコステ・#6/8) から始まり、三位一体主日 (#6/15) では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

＊＊＊待降節 (#11/30 ～ 12/24) ＊＊＊

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント (待降節) は、11 月 30 日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは 12 月 25 日ですが、クリスマス礼拝 (#12/21) は、25 日以前の日曜日を選んでをささげています。

＊＊＊降誕節 (12/25 ～ 1/5) ＊＊＊

イエス･キリストの誕生を祝う日 (12/25) から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

【記念日】

母の日 (5/11・5 月第二)
ウェスレー回心記念日 (5/24・1738 年)
花の日 (子どもの日・6/8・6 月第二)
父の日 (6/15・6 月第三)
ホーリネス弾圧記念日 (6/26・1942 年)
宗教改革記念日 (10/31・1517 年)
収穫感謝日 (11/23・11 月第四)

【当教会行事】

新年元旦礼拝 (1 月 1 日・水)
成人祝福礼拝 (#1/14・1 月第二)
聖書愛読週間 (#3/23 ～ 29)
みふみの日 (3 月 23 日)
教会創立記念礼拝 (3 月最終主日 / 創立記念日 3/27)
最後の晩餐集会 (#4 月 17 日夕)
召天者記念合同礼拝 (#6/1・6 月第二＊今年は第一)
弾圧記念礼拝 (#6 月 22 日・26 日前後の主日)
石出忠師記念礼拝 (#7 月 6 日・7 月第一)
敬老祝福礼拝 (#9/14・9 月第三)
子ども祝福礼拝 (#11/2・１１月第一)
クリスマスイブ礼拝 (12 月 24 日夕・水)

教会紹介

●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が１９０１年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。２０２２年３月２７日に創立いたしました。

●教義

旧新約聖書６６巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師Ａ．Ｂ．シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の４項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆新生　キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わること。これにより、天に住まう者のように、日々に喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙二 5:17 など)

◆聖化　神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙 2:19 ～ 20 など)

◆神癒(しんゆ)　肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記 15:26 など)

◆再臨(栄化)　キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙一 15:51 など)

教会の信条

相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかられ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が終末と示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

①キリストによる完全な救い
②真心からささげる礼拝
③キリストをかしらとした教会の交わり
④神の憐れみによるいやしと慰め
⑤信仰生活がもたらす祝福
⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
⑦神の愛に基づく社会への貢献

MEMO

単立 **相模原ホーリネス教会**　創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦　牧師 石出 佳代子　牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3
TEL&FAX 042(772)8910　e-mail church@bethels.info

ホームページ　http://www.bethels.info/